

冬の陣・真田山と夏の陣・茶白山(大阪市) 絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

熊野古道

みづくさ記

38

真田信繁(幸村)が九度山を訪ねた後、蟄居生活を送っていた大坂城での活躍ぶり



三光神社の幸村公銅像と抜け穴(大阪市天王寺区玉造本町)

が気になり、五月晴れにして、今は冬の陣の壊した。この行動力は出陣で有名になった幸村公像の雄姿とだぶる。三光神社の石段を登ると、勇ましい幸村公の銅像が迎えてくれた。次に夏の陣の激戦地に向かうため玉造から天王寺駅経由で、幸村最期の地と言われている安居神社を訪ねた。神社は菅原道真公の御神徳厚く、中でも大丸の業祖、下村彦右衛門を祀った九度山が懐かしく思い出しているように思えた。武将の顔ではない。幸村が本陣を置いた茶白山の頂上に、古戦場の説明があった。「紅丸」のドラマで、どのように表現されるのだろうかかと思いを巡らせながら帰路につくと、足元は熊野街道だった。長い歴史の中で街道は、参詣だけでなく、戦を誘う戦略の道でもあったと思ひ知る一日となった。

「日本一の兵」語り継がれ

心眼寺の跡地に、大阪向かいの細い参道を100歩ほど入ると、クスの旗を群れなびかせた真田の赤備えが陣を構えている茶白山の真田幸村隊3500は7日の正午過ぎ、徳川方最強の松平忠直率いる越前勢1万5000と激突した。長い歴史の中で街道は、参詣だけでなく、戦を誘う戦略の道でもあったと思ひ知る一日となった。

田丸 秦華